参考様式 2

設計内容説明書【鉄筋コンクリート造等共同住宅用】

（第一面）

※の欄は設計者が記入のこと

その１．住棟評価用

評価対象建築物の名称※	
評価対象建築物の所在地※	
設計者等の氏名※	
評価者氏名	

－必須項目－

	性能表示項目※	確認項目※	設計内容説明欄　※ 項目	設計内容説明欄　※ 設計内容	記載図書	図面番号	設計内容確認欄
1 構造の安定に関すること	耐震等級 その他 耐風等級 耐積雪等級 1-1 等級［ ］ 1-2 等級［ ］ 1-3 免震　□ その他□ 1-4 等級［ ］ 1-5 等級［ ］ □該当区域外	構造躯体	コンクリート及び配筋	・コンクリートの種類（ ） ・コンクリートの強度（ ） ・主筋の種類・径（ ） ・部材の寸法・種類（ ） ・部材相互の接合方法（ ）	□計算書 □仕様書 □構造伏図 □矩計図 □		
			免震建築物	□免震建築物 □平成 12 年建設省告示第 2009 号第 1 第 3 号に規定されるもの ・同告示第 2 の該当する号 □一(四号建築物) □二(建築基準法 20 条第二号に掲げる建築物) □三(時刻歴応答解析を行い大臣認定取得) ・免震層・免震材料の維持管理に関する計画[□有　□無] ・敷地の管理に関する計画[□有　□無] □その他（ ）	□構造計算書 □		
	1-6 地盤又は杭の許容支持力等及びその設定方法	地盤・杭	地盤の種類・支持力	・地盤の種類（ ） □地盤の許容応力度（ kN/㎡） □杭の許容支持力　（ kN/本） □杭状地盤の許容支持力度（ kN/㎡） □杭状地盤の許容支持力（ kN/本） ・地盤調査方法　（ ） ・地盤改良方法　（ ）	□仕様書 □構造伏図 □		
			地業	・種類（ ）			
	1-7 基礎の構造方法及び型式等	基礎	基礎の型式等	・基礎の型式　（□直接基礎　□杭基礎）	□仕様書 □構造伏図 □		
			直接基礎	・構造・型式（ ）			
			杭基礎	・杭種（ ） ・杭径〔 ㎝〕 ・杭長（ m）			
2 火災時の安全に関すること	2-5 耐火等級(延焼の恐れのある部分(開口部))	開口部の耐火性能	防火設備の仕様等（耐火性能が最も低いもの）	・サッシ・ガラスの種別（ ） ・認定番号（ ） ・耐火時間（ 分）	□配置図 □仕上表 □平面図 □		
	2-6 耐火等級(延焼の恐れのある部分(開口部以外))	外壁・軒裏の構造	外壁の構造等（耐火性能が最も低いもの）	・構造・材料（ ） ・認定番号（ ） ・耐火時間（ 分）	□配置図 □仕上表 □平面図 □		
			軒裏の構造等（耐火性能が最も低いもの）	・構造・材料（ ） ・認定番号（ ） ・耐火時間（ 分）			

設計内容説明書【鉄筋コンクリート造等共同住宅用】

※の欄は設計者が記入のこと

	性能表示項目※	確認項目※	設計内容説明欄 ※ 項目	設計内容説明欄 ※ 設計内容	記載図書	図面番号	設計内容確認欄
3 劣化の軽減に関すること	3-1 劣化対策等級(構造躯体等)	セメント	セメントの種類	□ポルトランドセメント （JIS R 5210） （□中庸熱 □低熱 □その他） □フライアッシュセメント（JIS R 5213） □高炉セメント （JIS R 5211）	□仕様書 □		
		コンクリートの水セメント比	最小かぶり厚さ	・土に接しない部分 耐力壁以外の壁 床屋内(㎜)屋外(㎜) 耐力壁、柱、はり 床屋内 (㎜) 屋外(㎜) ・土に接する部分 壁、柱、はり、床、基礎の立ち上がり部分（ ㎜） ・基礎（立ち上がり部分を除く） （ ㎜） ・外壁仕上げ[□タイル貼 □モルタル塗 □外断熱工法 □その他( )]	□仕様書 □		
			水セメント比	・コンクリートの種類（□普通コンクリート □軽量コンクリート） ・水セメント比 （ %）			
		部材の設計・配筋	設計かぶり厚さ	・施工誤差（ ㎜）	□仕様書 □		
		コンクリートの品質等	スランプ	（ ㎝）	□仕様書 □		
			単位水量	（ kg/m^3）			
			空気量	（ %） □コンクリート中の含水率を高くしない措置その他の有効な措置			
		施工計画	コンクリートの充填方法等	・打ち込み・締め固め方法 （ ） ・打ち継ぎ部の処理方法 （ ） ・養生方法 （ ）	□仕様書 □		
4 維持管理・更新への配慮に関すること	4-2 維持管理対策等級（共用配管）	共用配管	コンクリート内埋め込配管	・排水管[□無 □有] ・給水管[□無 □有] ・給湯管[□無 □有] ・ガス管[□無 □有]	□仕様書 □		
		地中埋設管	地中埋設管上のコンクリート打設	・排水管[□無 □有] ・給水管[□無 □有] ・給湯管[□無 □有] ・ガス管[□無 □有] □条例等の規定により凍結防止のための配管埋設が定められている地域	□仕様書 □		
		共用排水管	排水管の清掃措置、掃除口の点検措置	・共用立管 管の種類 掃除口の位置 点検措置 （ ）（ ）（□露出 □開口） （ ）（ ）（□露出 □開口） （ ）（ ）（□露出 □開口） ・横主管 ・管の種類 掃除口の位置、間隔 点検措置 （ ）（ ）（□露出 □開口） （ ）（ ）（□露出 □開口） （ ）（ ）（□露出 □開口）	□配置図 □平面図 □矩計図 □設備図 □		
		排水管の性状等（継手及びヘッダーを含む）	排水管等の内面	□平滑である（仕様等： ） □その他（ ）	□仕様書 □		
			設置状態	□たわみ抜け等が生じないように設置措置（ ） □その他（ ）			

設計内容説明書【鉄筋コンクリート造等共同住宅用】

※の欄は設計者が記入のこと

	性能表示項目※	確認項目※	設計内容説明欄 ※ 項目	設計内容説明欄 ※ 設計内容	記載図書	図面番号	設計内容確認欄
4 維持管理・更新への配慮に関すること(つづき)	4-2 維持管理対策等級（共用配管）(つづき)	配管点検口	排水管と専用配管の接合部	・接合部の位置（　　） 点検措置（□露出　□開口）	□平面図 □設備図 □		
			給水管と専用配管の接合部及びバルブ	・接合部の位置（　　） 点検措置（□露出　□開口） ・バルブの位置（　　） 点検措置（□露出　□開口）			
			給湯管と専用配管の接合部及びバルブ	・接合部の位置（　　） 点検措置（□露出　□開口） ・バルブの位置（　　） 点検措置（□露出　□開口）			
			ガス管と専用配管の接合部及びバルブ	・接合部の位置（　　） 点検措置（□露出　□開口） ・バルブの位置（　　） 点検措置（□露出　□開口）			
	4-3 更新対策（共用排水管） □該当なし	横主管のピット内等の措置	排水管	□建物直下になし □ピット内、床下、ピロティ等設置（□人通孔設置　□その他）	□平面図 □矩計図 □設備図 □		
			給水管	□建物直下になし □ピット内、床下、ピロティ等設置（□人通孔設置　□その他）			
			給湯管	□建物直下になし □ピット内、床下、ピロティ等設置（□人通孔設置　□その他）			
			ガス管	□建物直下になし □ピット内、床下、ピロティ等設置（□人通孔設置　□その他）			
		配管補修の措置	排水管	□露出（□共用部　□住棟外周部　□バルコニー） □ＰＳ内（□共用部に面して補修用開口有）	□平面図 □設備図 □		
			給水管	□露出（□共用部　□住棟外周部　□バルコニー） □ＰＳ内（□共用部に面して補修用開口有			
			給湯管	□露出（□共用部　□住棟外周部　□バルコニー） ＰＳ内（□共用部に面して補修用開口有）			
			ガス管	□露出（□共用部　□住棟外周部　□バルコニー） ＰＳ内（□共用部に面して補修用開口有）			
		共用排水管	コンクリート内の埋め込み配管	・共用排水管　[□無　□有]	□仕様書 □		
			地中埋設管上のコンクリート打設	・共用排水管　[□無　□有] □条例等の規定により凍結防止のため配管埋設が定められている地域	□仕様書 □		
			パイプスペース及びピット等	・横主管の設置位置 □ピット　□１階床下空間　□ピロティ □その他の共用部分 ・配管に人が到達できる経路 □人通孔　□その他（　　）	□仕様書 □		
				・共用排水管の設置位置 □共用部分　□住棟外周部　□バルコニー □その他（　　） ・共用排水管の設置方法 □露出　□パイプスペース内	□仕様書 □		

設計内容説明書【鉄筋コンクリート造等共同住宅用】

※の欄は設計者が記入のこと

	性能表示項目※	確認項目※	設計内容説明欄 ※				設計内容確認欄
			項目	設計内容	記載図書	図面番号	
4 維持管理・更新への配慮に関すること(つづき)	4-3 更新対策（共用排水管）（つづき）	共用排水管（つづき）	コンクリート床等の貫通部	・共用排水管のコンクリート床等の貫通部 [□無　□有] □共用配水管の切断工事を軽減する措置かつ、共用排水管がコンクリート床等を貫通する部分に共用排水管の撤去の際のはつり工事を軽減する措置 □排水管の接続替えを容易に行うための措置 □共用配水管の撤去、接続替えその他更新のための空間を確保	□		
			新たな共用排水管の設置余地	□共用排水管の近傍に新たな共用排水管の設置スペース・スリーブ等 □排水管の接続替えを容易に行うための措置 □共用排水管の撤去、接続替えその他更新のための空間を確保 ・専用排水管・横主管の接続替えができる空間、スリーブ　[□有　□無] □その他の措置（　　）			
		共用排水立管の位置	共用排水立管の位置	・共用排水立管の位置 [□共用廊下に面する共用部分 □外壁面・吹き抜け等の住戸外周部 □バルコニー □住戸専用部（　　） □その他（　　）]	□		

設計内容説明書【鉄筋コンクリート造等共同住宅用】

※の欄は設計者が記入のこと

その２．住戸評価用

住戸番号※	
建築物の名称※	
建築物の所在地※	
設計者等の氏名※	
評価者氏名	

－必須項目－

	性能表示項目※	確認項目※	設計内容説明欄　※ 項目	設計内容説明欄　※ 設計内容	記載図書	図面番号	設計内容確認欄
2 火災時の安全に関すること	2-1 感知警報装置設置等級（自住戸火災時）	感知警報装置	感知部分の設置場所等	・種類 [□自動火災報知設備 □住居用防災報知設備 (住宅用自動火災報知設備) □住宅用防災警報機(住宅用火災警報機) □その他（　　）] ・設置場所　　種別　　検定番号 [□全ての居室（　　）（　　）] [□全ての寝室（　　）（　　）] [□全ての階段（　　）（　　）] [□寝室のある階から直下階に通じる階段 （　　）（　　）] [□全ての台所等（　　）（　　）] [□その他（　　） （　　）（　　）]	□仕様書 □平面図 □		
			警報部分の性能等	・設置箇所（　　） ・検定番号等（　　）			
	2-2 感知警報装置設置等級(他住戸等火災時) □ 該当なし	感知警報装置	感知警報装置の種類等	感知器 ・種類（□共同住宅用自火報又は同等品　□住戸用自火報又は同等品　□その他） ・設置場所（□当該階　□直下の階） ・接続等（□各戸に有効に接続　□戸外表示器有り　□その他） 警報機 ・種類（□非常警報装置又は同等品　□その他） ・設置場所（□当該階　□直下の階　□その他（　　）） 接続等（□各々が有効に接続）	□仕様書 □平面図 □設備図 □		
	2-3 避難安全対策(他住戸等火災時・共用廊下) □ 該当なし	排煙形式		□開放型廊下 □自然排煙 □機械排煙（一般） □機械排煙（加圧式） □その他	□仕様書 □平面図 □		

設計内容説明書【鉄筋コンクリート造等共同住宅用】

※の欄は設計者が記入のこと

	性能表示項目※	確認項目※	設計内容説明欄 ※ 項目	設計内容説明欄 ※ 設計内容	記載図書	図面番号	設計内容確認欄
2火災時の安全に関すること（つづき）	2-3 避難安全対策(他住戸等火災時・共用廊下) (つづき) □ 該当なし	平面形状		□通常の歩行経路による２以上の方向への避難可 □直通階段との間に他住戸等なし □その他	□平面図 □		
		耐火等級(避難経路の開口部) □ 該当なし	防火設備の仕様等 (耐火性能が最も低いもの)	・構造（ ） ・認定番号（ ） ・耐火時間（ 分）	□平面図 □		
	2-4 脱出対策 (火災時) ※避難階は記入不要 □ 該当なし	脱出対策	バルコニー及び避難器具	□直通階段に直接通ずるバルコニー □隣戸に通ずるバルコニー □避難器具(□滑り棒　□滑り台　□緩降機 □避難用タラップ　□避難ロープ □避難はしご　□避難橋　□救助袋) □その他	□仕様書 □平面図 □		
	2-7 耐火等級（界壁及び界床）	界壁 □ 該当なし	界壁の構造等（耐火性能が最も低いもの）	・構造・材料（ ） ・認定番号（ ） ・耐火時間（ 分）	□仕様書 □平面図 □		
		界床 □ 該当なし	界床の構造等（耐火性能が最も低いもの）	・構造・材料（ ） ・認定番号（ ） ・耐火時間（ 分）	□仕様書 □平面図 □		
4維持管理・更新への配慮に関すること	4-1 維持管理対策等級（専用配管）	専用配管	コンクリート内埋め込み配管の有無	・排水管（□無　□有）　・給水管（□無　□有） ・給湯管（□無　□有）　・ガス管（□無　□有）	□仕様書 □		
			他の住戸の専用部設置の有無	・排水管（□無　□有）　・給水管（□無　□有） ・給湯管（□無　□有）　・ガス管（□無　□有）			
		地中埋設管	地中埋設管上のコンクリート打設の有無	・排水管（□無　□有）　・給水管（□無　□有） ・給湯管（□無　□有）　・ガス管（□無　□有） □条例等の規定により凍結防止のため配管埋設が定められている地域	□仕様書 □		
		専用排水管 □ 該当なし	排水管の清掃措置等	・便所 [□共用立管に隣接　□掃除口(□露出又は開口有)] ・その他の水廻り [□トラップ　□掃除口(□露出又は開口有)]	□平面図 □設備図 □		
		排水管の性状等(継手及びヘッダーを含む)	排水管等の内面	□平滑である（仕様等：　　） □その他（ ）	□仕様書 □		
			設置状態	□たわみ抜け等が生じないように設置 措置（ ） □その他（ ）			

設計内容説明書【鉄筋コンクリート造等共同住宅用】

※の欄は設計者が記入のこと

	性能表示項目※	確認項目※	設計内容説明欄 ※ 項目	設計内容説明欄 ※ 設計内容	記載図書	図面番号	設計内容確認欄
4維持管理・更新への配慮に関すること（つづき）	4-1 維持管理対策等級（専用配管） （つづき）	配管点検口 □ 該当なし	主要接合部等の点検措置	・排水管と設備機器の接合部 [□露出　□開口有　□その他(　　)] ・給水管と設備機器の接合部 [□露出　□開口有　□その他(　　)] ・給湯管と設備機器の接合部 [□露出　□開口有　□その他(　　)] ・給水管のバルブ及びヘッダー [□露出　□開口有　□その他(　　)] ・給湯管のバルブ及びヘッダー [□露出　□開口有　□その他(　　)] ・ガス管のバルブ及びヘッダー [□露出　□開口有　□その他(　　)]	□平面図 □設備図 □		
	4-4 更新対策 [住戸専用部]	構造躯体	躯体天井高	・躯体天井高 (　　mm以上) □異なる躯体天井高が存する場合 最も低い部分の躯体天井高さ (　　mm以上) 最も低い部分 [□はり　□傾斜屋根　□その他（　　）]	□矩形図 □		
			住戸専用部の構造躯体の壁又は柱	・住戸専用部の構造躯体で間取変更の障害となりうるもの □有（□壁　□柱） □無			
5温熱環境・エネルギー消費量に関すること	5-1 断熱等性能等級	適用する基準	適用する基準	□非住宅・住宅計算法（告示第 265 号） □住宅仕様基準（告示第 266 号）	□計算書 □仕様書 □平面図 □矩計図 □		
			非住宅・住宅計算法（告示第 265 号を適用する場合	・外皮平均熱貫流率　U_A (　　W/㎡ K) □U_Aの値を評価書に記載する※1			
				各部熱貫流率若しくは断熱材の熱抵抗、又は断熱材の種類と厚さ ・冷房期の平均日射熱取得率　η_A (　　) □ η_Aの値を評価書に記載する※2			
			住宅仕様基準（告示第 266 号）を適用する場合	・躯体の断熱性能等 □熱貫流率の基準に適合 □断熱材の熱抵抗の基準に適合			
				・開口部の断熱性能等 ・開口部比率の区分 □区分（い）　□区分（ろ）　□区分（は） □区分（に）			
				・緩和措置　（□有　□無） □外気に接する床をその他とみなす □窓の断熱（２％緩和）　□窓の日射（４％緩和）			
		躯体の断熱性能等	断熱材の種類と厚さ	・屋根　□外断熱　□内断熱 ・断熱の種類（仕様）(　　) ・断熱材の厚さ　(　　mm)	□		
				天井　□外断熱　□内断熱 ・断熱の種類（仕様）(　　) ・断熱材の厚さ　(　　mm)			

※１：等級４の場合のみ明示することができる。（地域区分の８地域を除く。）

※２：等級４の場合のみ明示することができる。（地域区分の１，２，３、及び４地域を除く。）

設計内容説明書【鉄筋コンクリート造等共同住宅用】

※の欄は設計者が記入のこと

	性能表示項目※	確認項目※	設計内容説明欄 ※ 項目	設計内容説明欄 ※ 設計内容	記載図書	図面番号	設計内容確認欄
5 温熱環境・エネルギー消費量に関すること（つづき）	5-1 断熱等性能等級（つづき）	躯体の断熱性能等（つづき）	断熱材の種類と厚さ（つづき）	・壁　□外断熱　□内断熱 ・断熱の種類（仕様）（　　） ・断熱材の厚さ　（　　mm） ・床（外気に接する部分）　□外断熱　□内断熱 ・断熱の種類（仕様）（　　） ・断熱材の厚さ　（　　mm） ・床（その他の部分） ・断熱の種類（仕様）（　　） ・断熱材の厚さ　（　　mm） ・土間床等の外周部（外気に接する部分） ・断熱の種類（仕様）（　　） ・断熱材の厚さ　（　　mm） ・土間床等の外周部（その他の部分） ・断熱の種類（仕様）（　　） ・断熱材の厚さ　（　　mm）	□仕様書 □矩計図 □		
		開口部の断熱性能等	窓・ドア等の断熱性	・建具・ドア枠の材質・形状、ｶﾞﾗｽの種類・構成等 建具形態　建具・ドア枠の材質・形状、　ｶﾞﾗｽの種類・構成等 （　　）（　　）（　　） （　　）（　　）（　　） （　　）（　　）（　　） （　　）（　　）（　　） （　　）（　　）（　　） 【適用除外開口部】（□有　□無） 箇所（　　）	□仕様書 □平面図 □		
			窓・ドア等の日射遮蔽措置	・建具・ドア枠の材質・形状、ｶﾞﾗｽの種類・構成等、庇・軒・付属部材等の設置 方位　建具・ドア枠の材質・形状、ｶﾞﾗｽの種類・構成等　庇・軒・付属部材等 （　　）（　　）（　　） （　　）（　　）（　　） （　　）（　　）（　　） （　　）（　　）（　　） （　　）（　　）（　　） 【適用除外開口部】（□有　□無） 箇所（　　）			
		結露防止対策	防湿層の設置	・繊維系断熱材等の使用　（□有　□無） ・防湿層の設置　（□有　□無） ・防湿層の種類　（　　） 【防湿層の設置の省略】　（□有　□無）	□仕様書 □平面図 □		
			通気層の設置（断熱構造とする場合）	・通気層の設置　（□有　□無） ・防風層の設置（繊維系断熱材等を使用した場合） （□有　□無） 【通気層の設置の省略】　（□有　□無） ・内断熱工法 □断熱材を構造躯体に全面密着等			
		熱橋部対策 □該当なし	熱橋部の断熱補強対策	・貫通部の断熱補強措置 断熱材の熱抵抗、又は断熱材の種類と厚さ （　　） 補強範囲（　　㎜）	□仕様書 □平面図 □		

設計内容説明書【鉄筋コンクリート造等共同住宅用】

※の欄は設計者が記入のこと

	性能表示項目※	確認項目※	設計内容説明欄 ※ 項目	設計内容説明欄 ※ 設計内容	記載図書	図面番号	設計内容確認欄
6 空気環境に関すること	6-1 ﾎﾙﾑｱﾙﾃﾞﾋﾄﾞ対策（内装及び天井裏等）	居室の内装の仕上げ材	使用する建材	□製材等　⇒(□製材　□丸太　□単層ﾌﾛｰﾘﾝｸﾞ) □特定建材 □その他	□仕様書 □		
			ホルムアルデヒド発散等級（特定建材）	特定建材のうち最もホルムアルデヒド発散量が大きい建材の等級 □Ｆ☆☆☆☆相当（規制対象外の建材） □Ｆ☆☆☆相当　（第三種ホルムアルデヒド発散建築材料） □Ｆ☆☆相当　（第二種ホルムアルデヒド発散建築材料） 特定建材の種類　使用箇所 （　）（　） （　）（　） （　）（　） （　）（　）			
		天井裏等の下地材等	措置方法	□使用建材による　□換気又は気密措置による	□仕様書 □		
			使用する建材	□製材等　⇒(□製材　□丸太　□単層ﾌﾛｰﾘﾝｸﾞ) □特定建材 □その他			
			ホルムアルデヒド発散等級（特定建材）	特定建材のうち最もホルムアルデヒド発散量が大きい建材の等級 □Ｆ☆☆☆☆相当（規制対象外の建材） □Ｆ☆☆☆相当　（第三種ホルムアルデヒド発散建築材料） 特定建材の種類　使用箇所 （　）（　） （　）（　） （　）（　） （　）（　）			
	6-2 換気対策	居室の換気対策	種類	□機械換気設備　□その他［　］	□仕様書 □平面図 □		
			機械換気設備	・一体とみなす居室の範囲 （　） 換気方式 □給気機＋排気機(第１種換気) □給気機＋排気機(第２種換気) □給気口＋排気機(第３種換気) 気積（　㎥）　換気量（　㎥/h） 換気回数（　回） 出入口建具の通気措置（□有　□無）			
				・一体とみなす居室の範囲 （　） 換気方式 □給気機＋排気機(第１種換気) □給気機＋排気口(第２種換気) □給気口＋排気機(第３種換気) 気積（　㎥）　換気量（　㎥/h） 換気回数（　回） 出入口建具の通気措置（□有　□無）	□		
				・一体とみなす居室の範囲 （　） 換気方式 □給気機＋排気機（第１種換気） □給気機＋排気口（第２種換気） □排気口＋排気機（第３種換気） 気積（　㎥）　換気量（　㎥/ｈ） 換気回数　（　回） 出入口建具の通気措置（□有　□無）			

設計内容説明書【鉄筋コンクリート造等共同住宅用】

※の欄は設計者が記入のこと

	性能表示項目※	確認項目※	設計内容説明欄 ※				設計内容確認欄
			項目	設計内容	記載図書	図面番号	
	6-2 換気対策 （つづき）	局所換気対策	便所	□機械換気設備　□換気のできる窓　□無	□		
			浴室	□機械換気設備　□換気のできる窓　□無			
			台所	□機械換気設備　□換気のできる窓　□無			
7 光・視環境に関すること	7-1 単純開口率	開口部（単純開口率）	居室の面積に対する開口部の割合	・居室の床面積の合計　（　　㎡） ・居室の開口部の面積の合計（　　㎡） ・単純開口率　（　　%）	□計算書 □平面図 □		
	7-2 方位別開口比	開口部（方位別開口比）	方位別開口部の面積合計の比	方位別開口部面積の合計　方位別開口比 北　（　　㎡）（　　%　） 東　（　　㎡）（　　%　） 南　（　　㎡）（　　%　） 西　（　　㎡）（　　%　） 真上（　　㎡）（　　%　）	□計算書 □平面図 □		

設計内容説明書【鉄筋コンクリート造等共同住宅用】

※の欄は設計者が記入のこと

	性能表示項目※	確認項目※	設計内容説明欄 ※				設計内容確認欄
			項目	設計内容	記載図書	図面番号	
9 高齢者等への配慮に関すること	9-1 高齢者等配慮対策等級（専用部分）	部屋の配置等	特定寝室と同一階にある室	・特定寝室（室名：　　）	□平面図 □		
				・特定寝室と同一階にある室 □玄関　□便所　□浴室　□食事室　□脱衣室 □洗面所			
				・ホームエレベーターの有無　[□無　□有] ・ホームエレベーター出入口の幅員（　　㎜）			
		段差	出入口等（日常生活空間内）	・玄関出入口 くつずりと玄関外側（　　㎜） くつずりと玄関土間（　　㎜） ・上がりかまち　（　　㎜） ・浴室出入口　（　　㎜） ・バルコニー出入口　（　　㎜） ・タタミコーナー等 高さ　（　　㎜） 幅・奥行　（　　㎜×　　㎜） 面積　（　　㎡） ・その他の段差　（　　）	□平面図 □矩計図 □		
			その他（日常生活空間外）	・室名（　　，　　㎜）			
		階段 □ 該当なし	勾配等	・けあげ　（　　㎜） ・踏面　（　　㎜） ・勾配　（　　／　　） ・	□平面図 □		
			蹴込み	・蹴込み寸法　（　　㎜） ・蹴込み板（□無　□有）			
			形式等	・階段の形式　（　　） 最上階の通路等への食い込み（□無　□有） ・最下階の通路等への突出（□無　□有）			
			滑り防止	・滑り止め（□無　□有、踏面と同一面）			
			段鼻	・段鼻の出（□無　□有）			
		手すり	手すりの設置	・階段　（□両側設置　□片側設置） 手すり高さ　（　　㎜）	□仕様書 □平面図 □矩計図 □		
				・便所　（□設置）			
				・浴室　（□浴室出入り　□浴槽出入り □浴槽立ち座り　□姿勢保持 □洗い場立ち座り）			
				・玄関　（□設置　□設置可）			
				・脱衣室（□設置　□設置可）			
			転落防止手すりの設置	・バルコニー 腰壁等の高さ（　　㎜） 手すり高さ（□腰壁等より　□床面より　　㎜）			

設計内容説明書【鉄筋コンクリート造等共同住宅用】

※の欄は設計者が記入のこと

	性能表示項目※	確認項目※	設計内容説明欄 ※				設計内容確認欄
			項目	設計内容	記載図書	図面番号	
9 高齢者等への配慮に関すること（つづき）	9-1 高齢者等配慮対策等級（専用部分）(つづき)	手すり（つづき）	転落防止手すりの設置（つづき）	・窓（２階） 窓台等の高さ（　　㎜） 手すり高さ（□窓台等より□床面より　　㎜） ・窓（３階以上） 窓台等の高さ（　　㎜） 手すり高さ（□窓台等より□床面より　　㎜） ・廊下及び階段（開放されている側） 腰壁等の高さ（　　㎜） 手すり高さ （□腰壁等より□床面･踏面の先端より　　㎜） □手すり子の内法寸法 （□110㎜以下　□110㎜を超える）			
		通路及び出入口の幅員(日常生活空間)	通路の幅員	・最小有効幅員（　　㎜） 柱等の箇所（　　㎜）	□平面図		
			出入口の幅員	・玄関（　　㎜） ・浴室出入口（　　㎜） ・玄関･浴室出入口以外の室の出入口 （最小幅員　　㎜） □工事を伴わない撤去による対応可 □軽微な改造により対応可・浴室出入口			
		寝室、便所及び浴室（日常生活空間）	浴室の寸法	・内法の短辺寸法（　　㎜） ・内法面積（　　㎡）	□平面図 □		
			便所の寸法等	・内法の短辺寸法（　　㎜） □工事を伴わない撤去による対応可 □軽微な改造により対応可 □ドア開放により対応可 ・内法の長辺寸法（　　㎜） □工事を伴わない撤去による対応可 □軽微な改造により対応可 □ドア開放により対応可 ・便器の型式（□腰掛け式　□その他）			
			特定寝室の面積	・内法面積（　　㎡）			

設計内容説明書【鉄筋コンクリート造等共同住宅用】

※の欄は設計者が記入のこと

	性能表示項目※	確認項目※	設計内容説明欄 ※				設計内容確認欄
			項目	設計内容	記載図書	図面番号	
9 高齢者等への配慮に関すること（つづき）	9-2 高齢者等配慮対策等級（共用部分）	共用廊下	手すり	□両側設置　□片側設置　□無 ・床面からの高さ（　　㎜）	□仕様書 □平面図 □矩計図 □		
			外部開放廊下の転落防止用手すり	・腰壁等の高さ（　　㎜） ・手すり高さ(□腰壁より　□床面の先端より　　㎜) □手すり子の内法寸法 （□110㎜以下　□110㎜を超える）			
			床の段差等	□段差なし ・高低差［□無　□有（　　㎜）］ ・高低差が生じる場合の構造 □傾斜路（勾配 1／12 以下）と段の併設 □傾斜路（勾配 1／15 以下）の設置 □傾斜路（勾配 1／8 以下）の設置 □段差なし ・傾斜路の構造 手すり（□両側設置　□片側設置　□無） 手すりの床面からの高さ（　　㎜） 有効幅員（　　㎜） ・段の構造 有効幅員（　　㎜） 勾配（　　／　　） けあげ（　　㎜）・踏面（　　㎜） 段の蹴込み寸法（　　㎜） 蹴込み板（□無　□有） 最上段の通路等への食い込み（□無　□有） 最下段の通路等への突出（□無　□有） 滑り止め（□無　□有、踏面と同一面） 段鼻の出（□無　□有） 手すり（□両側設置　□片側設置　□無） 手すりの踏面の先端からの高さ（　　㎜）			
			共用廊下の幅員	有効幅員（　　㎜）			
		共用階段	勾配等	・けあげ（　　㎜）・踏み面（　　㎜） ・勾配（　　／　　）	□平面図 □		
			蹴込み	・段の蹴込み寸法（　　㎜） 蹴込み板（□無　□有）			
			形式等	・階段の形式 （□踊り場付き折れ階段　□直階段　□その他） ・最上段の通路等への食い込み（□無　□有） ・最下段の通路等への突出（□無　□有）			
			手すり	□両側設置　□片側設置　□無 ・踏面の先端からの高さ（　　㎜）			
			滑り防止	・滑り止め（□無　□有、踏面と同一面）			
			段鼻	・段鼻の出（□無　□有）			
			転落防止用手すり（外部開放階段）	・腰壁等の高さ（　　㎜） ・手すり高さ(□踏面の先端より□腰壁等より　　㎜) □手すり子の内法寸法 （□110㎜以下　□110㎜を超える）			
			共用階段の幅員（エレベーターを利用できない場合）	・有効幅員（　　㎜）			

設計内容説明書【鉄筋コンクリート造等共同住宅用】

※の欄は設計者が記入のこと

	性能表示項目※	確認項目※	設計内容説明欄 ※				設計内容確認欄
			項目	設計内容	記載図書	図面番号	
9 高齢者等への配慮に関すること（つづき）	9-2 高齢者等配慮対策等級（共用部分）(つづき)	エレベーター	エレベーターの利用	・住戸位置（□建物出入口の存する階　□左記以外） ・エレベター設置（□有　□無）	□仕様書 □平面図 □		
			エレベーターの仕様	・出入口の有効幅員（　　㎜） ・かごの奥行き寸法（　　㎜）			
			エレベーターホールの広さ	エレベーターホールの寸法（　　㎜×　　㎜）			
			建物出入口からエレベーターホールへの経路上の床段差等	□段差なし ・高低差［□無　□有（　　㎜）］			
			傾斜路及び段の構造（建物出入口からエレベーターホールへの経路上の床の高低差が生じる場合）	□傾斜路（勾配 1／12 以下）と段の併設 □傾斜路（勾配 1／15 以下）の設置 □傾斜路（勾配 1／8 以下）の設置			
				・傾斜路の構造 手すり（□両側設置　□片側設置　□無） 床面からの高さ（　　㎜） 有効幅員（　　㎜）			
				・段の構造 有効幅員（　　㎜） 勾配（　　／　　） けあげ（　　㎜）　・踏み面（　　㎜） 段の蹴込み寸法（　　㎜） 蹴込み板（□無　□有） 最上段の通路等への食い込み（□無　□有） 最下段の通路等への突出（□無　□有） 滑り止め（□無　□有、踏面と同一面） 段鼻の出（□無　□有） 手すり（□両側設置　□片側設置　□無） 踏面の先端からの高さ（　　㎜）			

設計内容説明書【鉄筋コンクリート造等共同住宅用】

※の欄は設計者が記入のこと

	性能表示項目※	確認項目※		設計内容説明欄 ※ 項目	設計内容説明欄 ※ 設計内容	記載図書	図面番号	設計内容確認欄
10 防犯に関すること	10-1 開口部の侵入防止対策 [階]＊	住戸の出入口 (区分ａ) □その他 □該当なし		戸及び錠による対策	・対象箇所（ ） ・戸の性能（□ＣＰ表示品 □その他（ ）） ・ガラスの性能 □対象外 □対象⇒ （□ＣＰ表示品 □その他（ ）） ｳｲﾝﾄﾞｳﾌｨﾙﾑ □不要 □必要⇒（□有 □無） ・錠数（□２以上装着） １以上の錠（□ＣＰ表示品・ﾃﾞｯﾄﾞﾎﾞﾙﾄ鎌式 □その他（ ）） １以上の錠（□サムターン操作不可）	□仕様書 □平面図 □立面図 □		
				上記と同等の対策	・対策（□ＣＰ表示品 □その他（ ））			
				雨戸等による対策	・対象箇所（ ） ・種類（□雨戸□シャッター□その他（ ）） ・対策（□ＣＰ表示品□その他（ ））			
		外部からの接近が比較的容易な開口部 (区分ｂ) (ｉ) 共用廊下又は共用階段 □その他 □該当なし	開閉機構あり	サッシ及びガラスによる対策	・対策箇所（ ） ・サッシ（□ＣＰ表示品 □その他（ ）） ・ガラス（□ＣＰ表示品 □その他（ ）） ｳｲﾝﾄﾞｳﾌｨﾙﾑ □不要 □必要⇒（□有 □無） ・クレセント等（□２以上装着）	□仕様書 □平面図 □立面図 □		
				戸及び錠による対策	・対象箇所（ ） ・戸の性能（□ＣＰ表示品 □その他（ ）） ・ガラスの性能 □対象外 □対象⇒ （□ＣＰ表示品 □その他（ ）） ｳｲﾝﾄﾞｳﾌｨﾙﾑ □不要 □必要⇒（□有 □無） ・錠数（□２以上装着） １以上の錠（□ＣＰ表示品・ﾃﾞｯﾄﾞﾎﾞﾙﾄ鎌式 □その他（ ）） １以上の錠（□サムターン操作不可）			
				上記と同等の対策	・対策（□ＣＰ表示品 □その他（ ））			
				雨戸等による対策	・対象箇所（ ） ・種類（□雨戸□シャッター□その他（ ）） ・対策（□ＣＰ表示品□その他（ ））			
			開閉機構なし	ガラスによる対策	・対象箇所（ ） ・ガラス（□ＣＰ表示品 □その他（ ）） ｳｲﾝﾄﾞｳﾌｨﾙﾑ □不要 □必要⇒（□有 □無）			
				雨戸等による対策	・対象箇所（ ） ・種類（□雨戸□シャッター□その他（ ）） ・対策（□ＣＰ表示品□その他（ ））			
		外部からの接近が比較的容易な開口部 (区分ｂ) (ⅱ) バルコニー等 □その他 □該当なし	開閉機構あり	サッシ及びガラスによる対策	・対策箇所（ ） ・サッシ（□ＣＰ表示品 □その他（ ）） ・ガラス（□ＣＰ表示品 □その他（ ）） ｳｲﾝﾄﾞｳﾌｨﾙﾑ □不要 □必要⇒（□有 □無） ・クレセント等（□２以上装着）	□仕様書 □平面図 □立面図 □		
				戸及び錠による対策	・対象箇所（ ） ・戸の性能（□ＣＰ表示品 □その他（ ）） ・ガラスの性能 □対象外 □対象⇒ （□ＣＰ表示品 □その他（ ）） ｳｲﾝﾄﾞｳﾌｨﾙﾑ □不要 □必要⇒（□有 □無） ・錠数（□２以上装着） １以上の錠（□ＣＰ表示品・ﾃﾞｯﾄﾞﾎﾞﾙﾄ鎌式 □その他（ ）） １以上の錠（□サムターン操作不可）			

設計内容説明書【鉄筋コンクリート造等共同住宅用】

※の欄は設計者が記入のこと

	性能表示項目※	確認項目※		設計内容説明欄 ※ 項目	設計内容説明欄 ※ 設計内容	記載図書	図面番号	設計内容確認欄
10 防犯に関すること（つづき）	10-1 開口部の侵入防止対策 (つづき)	外部からの接近が比較的容易な開口部 (区分 b) (ii) バルコニー等 (つづき) □その他 □該当無し	開閉機構あり(つづき)	上記と同等の対策	・対策（□ＣＰ表示品 □その他（))	□仕様書 □平面図 □立面図 □		
				雨戸等による対策	・対象箇所（) ・種類（□雨戸□シャッター□その他（)) ・対策（□ＣＰ表示品□その他（))			
			開閉機構なし	ガラスによる対策	・対象箇所（) ・ガラス（□ＣＰ表示品 □その他（)) ｳｲﾝﾄﾞｳﾌｨﾙﾑ □不要 □必要⇒（□有 □無）			
				雨戸等による対策	・対象箇所（) ・種類（□雨戸□シャッター□その他（)) ・対策（□ＣＰ表示品□その他（))			
		その他の開口部 (区分 c) □その他 □該当なし	開閉機構あり	サッシ及びガラスによる対策	・対策箇所（) ・サッシ（□ＣＰ表示品 □その他（)) ・ガラス（□ＣＰ表示品 □その他（)) ｳｲﾝﾄﾞｳﾌｨﾙﾑ □不要 □必要⇒（□有 □無） ・クレセント等（□２以上装着）	□仕様書 □平面図 □立面図 □		
				戸及び錠による対策	・対象箇所（) ・戸の性能（□ＣＰ表示品 □その他（)) ・ガラスの性能 □対象外 □対象⇒ （□ＣＰ表示品 □その他（)) ｳｲﾝﾄﾞｳﾌｨﾙﾑ □不要 □必要⇒（□有 □無） ・錠数（□２以上装着） １以上の錠（□ＣＰ表示品・ﾃﾞｯﾄﾞﾎﾞﾙﾄ鎌式 □その他（)) １以上の錠（□サムターン操作不可）			
				上記と同等の対策	・対策（□ＣＰ表示品 □その他（))			
				雨戸等による対策	・対象箇所（) ・種類（□雨戸□シャッター□その他（)) ・対策（□ＣＰ表示品□その他（))			
			開閉機構なし	ガラスによる対策	・対象箇所（) ・ガラス（□ＣＰ表示品 □その他（)) ｳｲﾝﾄﾞｳﾌｨﾙﾑ □不要 □必要⇒（□有 □無）			
				雨戸等による対策	・対象箇所（) ・種類（□雨戸□シャッター□その他（)) ・対策（□ＣＰ表示品□その他（))			
		評価対象外の開口部 □該当なし		開口部の大きさ、対象箇所	開口部の大きさ 対象箇所 （ ）（) （ ）（) （ ）（) （ ）（)	□仕様書 □平面図 □立面図 □		

＊１つの階ごとに１つの欄を使用し、メゾネット等で１住戸に２以上の階がある場合には、階の数だけ各欄を連結して使用する。

設計内容説明書【鉄筋コンクリート造等共同住宅用】

※の欄は設計者が記入のこと

—選択項目—　　＊選択項目に係る評価の要否　□要　□否

	性能表示項目※	確認項目※	設計内容説明欄 ※ 項目	設計内容説明欄 ※ 設計内容	記載図書	図面番号	設計内容確認欄
8 音環境に関すること	8-1 □ 重量衝撃音対策等級 □ 相当スラブ厚	下階界床 □該当なし	床構造等	・スラブの種類・厚さ □均質単板スラブ（　　㎜） □ボイドスラブ（　　㎜） （等価厚さ　　㎜） ・端部拘束条件 最高（　　辺）　最低（　　辺） ・受音室名・面積 最高（　　㎡）　最低（　　㎡）	□計算書 □仕様書 □平面図 □		
			床仕上げ構造等	・床仕上げ材（最高） □織じゅうたん（JIS L4404）□左記と同等根拠（　　） □ﾀﾌﾃｯﾄﾞｶｰﾍﾟｯﾄ（JIS L4405）□左記と同等根拠（　　） □畳（JIS A5902）　□左記と同等根拠（　　） □建材畳（JIS A5914）　□左記と同等根拠（　　） □ビニル系床材（JIS A5705）□左記と同等根拠（　　） □JIS A1440 の 5.1 のカテゴリーⅠのもの（　　） □木質系ﾌﾛｰﾘﾝｸﾞ材（厚　　㎜） □その他（　　） ・施工方法（最高） □直接床構造の上に施工 □乾式二重床下地構造の上に施工 □発泡ﾌﾟﾗｽﾁｯｸ系下地構造材の上に施工 □その他 ・床仕上げ材（最低） □織じゅうたん（JIS L4404）□左記と同等根拠（　　） □ﾀﾌﾃｯﾄﾞｶｰﾍﾟｯﾄ（JIS L4405）□左記と同等根拠（　　） □畳（JIS A5902）　□左記と同等根拠（　　） □建材畳（JIS A5914）　□左記と同等根拠（　　） □ビニル系床材（JIS A5705）□左記と同等根拠（　　） □JIS A1440 の 5.1 のカテゴリーⅠのもの（　　） □木質系ﾌﾛｰﾘﾝｸﾞ材（厚　　㎜） □その他（　　） ・施行方法（最低） □直接床構造の上に施工 □乾式二重床下地構造の上に施工 □発泡ﾌﾟﾗｽﾁｯｸ系下地構造材の上に施工 □その他			

設計内容説明書【鉄筋コンクリート造等共同住宅用】

※の欄は設計者が記入のこと

	性能表示項目※	確認項目※	設計内容説明欄 ※ 項目	設計内容説明欄 ※ 設計内容	記載図書	図面番号	設計内容確認欄
8音環境に関すること（つづき）	8-1 □ 重量衝撃音対策等級 □ 相当スラブ厚 (つづき)	上階界床 □該当なし	床構造等	・スラブの種類・厚さ □均質単板スラブ等（　　㎜） □ボイドスラブ（　　㎜） （等価厚さ　　㎜） ・端部拘束条件 最高（　　辺）　最低（　　辺） ・受音室名・面積 最高（　　㎡）最低（　　㎡）	□計算書 □仕様書 □平面図 □		
			床仕上げ構造等	・床仕上げ材（最高） □織じゅうたん（JIS L4404）□左記と同等根拠（　　） □ﾀﾌﾃｯﾄﾞｶｰﾍﾟｯﾄ（JIS L4405）□左記と同等根拠（　　） □畳（JIS A5902）　□左記と同等根拠（　　） □建材畳（JIS A5914）　□左記と同等根拠（　　） □ビニル系床材（JI A5705）□左記と同等根拠（　　） □JIS A1440 の 5.1 のカテゴリーⅠのもの（　　） □木質系ﾌﾛｰﾘﾝｸﾞ材（厚　　㎜） □その他（　　） ・施工方法（最高） □直接床構造の上に施工 □乾式二重床下地構造の上に施工 □発泡ﾌﾟﾗｽﾁｯｸ系下地構造材の上に施工 □その他 ・床仕上げ材（最低） □織じゅうたん（JIS L4404）□左記と同等根拠（　　） □ﾀﾌﾃｯﾄﾞｶｰﾍﾟｯﾄ（JIS L4405）□左記と同等根拠（　　） □畳（JIS A5902）　□左記と同等根拠（　　） □建材畳（JIS A5914）　□左記と同等根拠（　　） □ビニル系床材（JI A5705）□左記と同等根拠（　　） □木質系ﾌﾛｰﾘﾝｸﾞ材（厚　　㎜） □その他（　　） ・施工方法（最低） □直接床構造の上に施工 □乾式二重床下地構造の上に施工 □発泡ﾌﾟﾗｽﾁｯｸ系下地構造材の上に施工□その他			

設計内容説明書【鉄筋コンクリート造等共同住宅用】

※の欄は設計者が記入のこと

	性能表示項目※	確認項目※	設計内容説明欄 ※ 項目	設計内容説明欄 ※ 設計内容	記載図書	図面番号	設計内容確認欄
8音環境に関すること（つづき）	8-2 □ 軽量床衝撃音対策等級 □ 軽量床衝撃音レベル低減量（床仕上げ構造）	下階界床 □該当なし	床構造の区分等	・床構造の区分（最高） (□床構造１　□床構造２　□床構造３　□その他) ・床構造の区分（最低） (□床構造１　□床構造２　□床構造３　□その他) ・受音室名 最高（　　）　最低（　　）	□仕様書 □平面図 □		
			床仕上げ材の区分等	・床仕上げ構造の区分（最高） （□床仕上げ構造１　□床仕上げ構造２ □床仕上げ構造３　□床仕上げ構造４ □床仕上げ構造５　□その他） 根拠（　　） ・床仕上げ構造の区分（最低） （□床仕上げ構造１　□床仕上げ構造２ □床仕上げ構造３　□床仕上げ構造４ □床仕上げ構造５　□その他） 根拠（　　）			
		上階界床 □該当なし	床構造の区分等	・床構造の区分（最高） (□床構造１　□床構造２　□床構造３　□その他) ・床構造の区分（最低） (□床構造１　□床構造２　□床構造３　□その他) ・受音室名 ・　最高（　　）　最低（　　）			
			床仕上げ材の区分等	・床仕上げ構造の区分（最高） （□床仕上げ構造１　□床仕上げ構造２ □床仕上げ構造３　□床仕上げ構造４ □床仕上げ構造５　□その他） 根拠（　　） ・床仕上げ構造の区分（最低） （□床仕上げ構造１　□床仕上げ構造２ □床仕上げ構造３　□床仕上げ構造４ □床仕上げ構造５　□その他） 根拠（　　）			
	8-3 透過損失等級（界壁）	界壁の遮音性能 □該当なし	界壁の構造・仕様（最も性能の低いもの）	□RC 造　□SRC 造　□SC 造 □普通ｺﾝｸﾘｰﾄ　厚さ（　　cm） □軽量ｺﾝｸﾘｰﾄ　厚さ（　　cm） 面密度（　　）相当 □無筋ｺﾝｸﾘｰﾄ　厚さ（　　cm） 面密度（　　）相当 □ｺﾝｸﾘｰﾄﾌﾞﾛｯｸ造　□れんが造　□石造 厚さ（　　cm） 面密度（　　）相当 □両面モルタル塗り　(厚さ　　㎜) □両面プラスター塗り　(厚さ　　㎜)	□仕様書 □平面図 □		
			付帯条件	・コンセントボックスの位置等 □対面する位置に欠き込み設置なし ・界壁の仕上げ材（ボード類） □界壁とボード類との間に接着モルタル等の点付けによる空隙なし			

設計内容説明書【鉄筋コンクリート造等共同住宅用】

※の欄は設計者が記入のこと

	性能表示項目※	確認項目※	設計内容説明欄 ※				設計内容確認欄
			項目	設計内容	記載図書	図面番号	
8音環境に関すること（つづき）	8-4 透過損失等級 （外壁開口部）	開口部の遮音性能	北の方位のサッシ・ドアセット(遮音性能が最も低いもの) □該当なし	□JIS 遮音等級表示品　□同等品 [□T-4　□T-3　□T-2　□T-1] □その他試験を行うもの（　　dB） 試験機関（　　） 試験番号（　　）	□仕様書 □平面図 □		
			東の方位のサッシ・ドアセット(遮音性能が最も低いもの) □該当なし	□JIS 遮音等級表示品　□同等品 [□T-4　□T-3　□T-2　□T-1] □その他試験を行うもの（　　dB） 試験機関（　　） 試験番号（　　）			
			南の方位のサッシ・ドアセット(遮音性能が最も低いもの) □該当なし	□JIS 遮音等級表示品　□同等品 [□T-4　□T-3　□T-2　□T-1] □その他試験を行うもの（　　dB） 試験機関（　　） 試験番号（　　）			
			西の方位のサッシ・ドアセット(遮音性能が最も低いもの) □該当なし	□JIS 遮音等級表示品　□同等品 [□T-4　□T-3　□T-2　□T-1] □その他試験を行うもの（　　dB） 試験機関（　　） 試験番号（　　）			